

3. 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

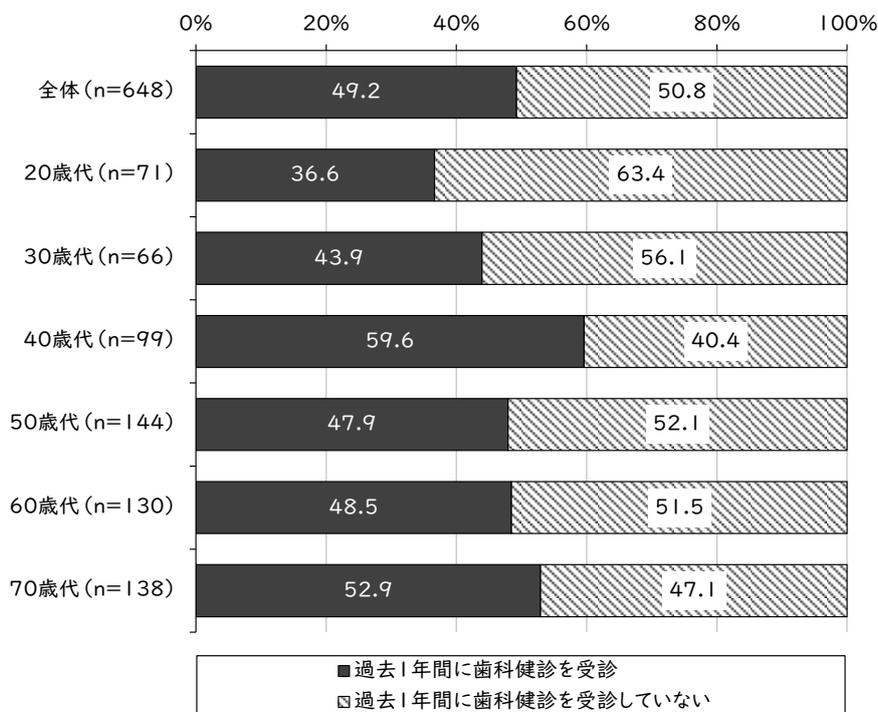
●特徴

- 市民が、それぞれのライフコースに沿った歯と口の健康づくりに取り組むことができるよう、家庭や行政、教育機関や医療機関、関係機関や関係団体、企業、医療保険者などが、それぞれの立場で有機的な連携・協働を図り、例えば定期的に歯科健診を受診することのできる環境を整備するなど、市民の歯と口の健康づくりの支援をしていく必要があります。
- 高校卒業後は、歯科健診を受診する機会が減ってしまうため、気づかないままむし歯や歯周病が進行してしまいます。生涯を通じて歯科健診を受診し、定期的に自身の歯と口の状態を把握することで、歯科疾患の発症予防・重症化予防や口腔機能の維持・向上を図ることが大切です。また、定期的に自身の歯と口の健康状態を把握することで、歯科医療機関への受療に適切につながることも期待されます。
- 妊娠期は、妊娠による身体的変化やホルモンバランス、生活習慣の変化などにより、むし歯や歯周病のリスクが増加します。妊婦の歯周病は、早産や低体重児出産のリスクを高める可能性があることから、安定期には妊婦歯科健康診査を受診し、歯周病の発症予防・重症化予防を行うことが大切です。
- フッ化物の応用（フッ化物歯面塗布やフッ化物洗口など）は、むし歯予防効果が数多く示され、安全性などの観点からも推奨されており、特に小児期に効果が期待されます。

●現状と課題

- 過去1年間に歯科健診を受診した者の割合（20歳以上）は、図38の通り、49.2%でした。若い世代ほど受診率が低くなっています。

・図38:過去1年間に歯科健診を受診した者の割合（20歳以上）（令和5年度）

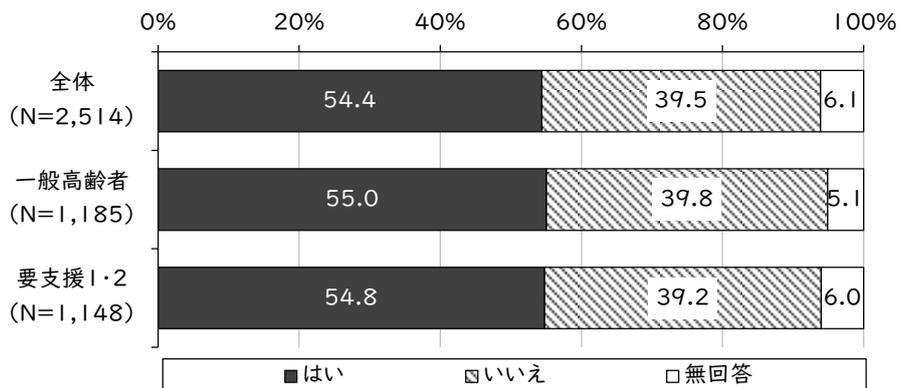


資料:令和5年度健康トライ21市民アンケート

※「あなたは、定期的に歯科健診を受診されていますか。」について「はい(半年に1回)」「はい(1年に1回)」を回答した者を「過去1年間に歯科健診を受診」として集計

○定期的に歯科受診(健診を含む)をしている一般高齢者の割合は、図39の通り、54.4%でした。

・図39:定期的に歯科受診(健診を含む)をしている一般高齢者(65歳以上)(令和5年度)



資料:令和5年度東大阪市高齢者保健福祉に関するアンケート調査

○本市の成人歯科健康診査は、平成27年度から、満30歳、満35歳の市民まで対象を拡大し、若い世代から成人歯科健康診査を受けることができるようになりましたが、表2の通り、若い世代の受診率は低くなっています。なお、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、全体的に受診率が下がっていると考えられます。

・表2:東大阪市成人歯科健康診査の受診状況

単位:人:受診者数(%:受診率)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
30歳				150(2.8)	118(2.2)	104(2.0)	80(1.6)	101(2.1)	70(1.4)	73(1.5)	86(1.7)
35歳				172(3.0)	140(2.5)	135(2.6)	140(2.6)	120(2.3)	100(1.9)	109(2.2)	106(2.2)
40歳	508(5.8)	440(5.0)	442(5.2)	454(5.6)	365(5.1)	348(5.3)	350(5.8)	302(5.4)	217(3.9)	174(3.4)	140(2.6)
45歳	222(2.8)	199(2.5)	217(2.6)	300(3.6)	278(3.3)	247(2.9)	305(3.7)	253(3.2)	185(2.6)	208(3.2)	172(2.8)
50歳	218(3.4)	238(3.8)	228(3.6)	277(3.9)	223(3.2)	309(4.8)	325(4.0)	291(3.5)	274(3.2)	260(3.0)	281(3.2)
55歳	167(3.3)	205(4.1)	216(4.0)	215(3.9)	245(4.4)	258(4.4)	287(4.5)	278(4.0)	250(3.6)	201(3.1)	273(3.5)
60歳	289(4.8)	269(4.5)	283(4.9)	265(5.0)	238(4.8)	239(4.9)	290(5.5)	261(4.9)	239(4.4)	224(3.9)	261(4.3)
65歳	449(4.7)	459(4.8)	426(4.7)	432(5.2)	422(5.7)	357(5.6)	299(5.4)	294(5.7)	228(4.7)	220(4.7)	236(5.0)
70歳	524(7.4)	508(7.2)	428(5.7)	411(6.4)	463(9.4)	641(9.2)	635(7.5)	566(7.3)	357(5.2)	402(6.7)	320(6.0)
75歳	445(7.4)	351(5.8)	380(7.3)	495(8.8)	575(8.6)	564(7.7)					
80歳	242(6.2)	175(4.5)	202(5.1)	261(6.1)	351(7.2)	332(6.8)					

資料:東大阪市成人歯科健康診査

○本市の妊婦歯科健康診査の受診率は、表3の通り年々増加していますが、約3割程度となっています。

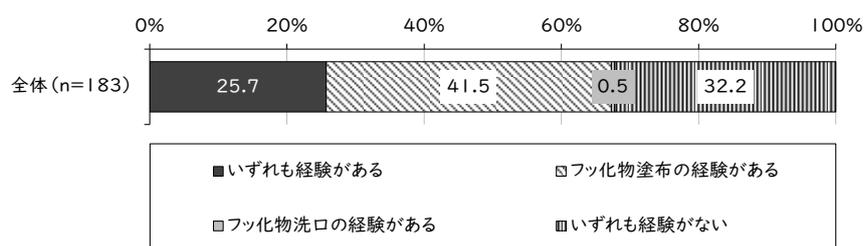
・表3：東大阪市妊婦歯科健康診査の受診状況

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対象者数(人)	3,646	3,500	3,358	3,263	3,127	3,215
受診者数(人)	765	810	888	847	945	1,000
受診率(%)	21.0	23.1	26.4	26.0	30.2	31.1

資料：東大阪市妊婦歯科健康診査

○15歳未満でフッ化物応用の経験がある者の割合は、図40の通り、7割に満たない状況です。

・図40：15歳未満でフッ化物応用の経験がある者（令和5年度）



資料：令和5年度健康トライ21市民アンケート

●取組みの方針

- かかりつけ歯科医などで定期的に歯科健診を受診し、その後適切な歯科保健指導を受け、生涯にわたって主体的に歯と口の健康づくりに努めるよう、普及啓発に取り組みます。
- 本市の成人歯科健康診査について、市政だよりやホームページなどにおける情報提供の機会や内容の充実に取り組み、受診率の向上を目指します。特に、働く世代の受診につながるよう、公民連携を活用した啓発や、商工会議所や企業への出前講座などに取り組みます。さらに、成人歯科健康診査の機会の充実に努めます。
- 本市の妊婦歯科健康診査について、市政だよりなどの広報の充実に加え、母子健康手帳交付時などの機会をとらえた個別の受診勧奨などにより、受診率の向上を目指します。
- フッ化物は、むし歯予防に効果があることから、フッ化物配合歯磨剤の適切な使用や歯科医療機関での定期的なフッ化物歯面塗布の重要性などについて、関係機関と連携し、保護者へ普及啓発を行います。
- 本市の幼児歯科健康診査や学校歯科健康診断、成人歯科健康診査や妊婦歯科健康診査、大阪府後期高齢者医療広域連合が実施している後期高齢者医療歯科健康診査等の結果などを分析し、必要に応じて取組みの見直しなどを検討します。また、国や大阪府、他の地方自治体等の歯と口の健康づくりに関する動向や好事例などの把握に努め、関係機関や庁内関係部署等との連携を強化し、地域の特性に合わせた歯と口の健康づくりを推進します。

●市民が取り組むこと

- 本市の成人歯科健康診査や、大阪府後期高齢者医療広域連合が実施している後期高齢者医療歯科健康診査などの機会を利用するなどして、定期的に歯科健診を受診し、生涯を通じて歯と口の健康づくりに取り組みます。
- 本市の妊婦歯科健康診査を利用し、歯周病などの発症予防・重症化予防に努めます。

○フッ化物を利用して、子どものむし歯を予防します。

●目標

	指標	現状値	目標値 (令和16年度)	データソース
20	過去1年間に歯科健診を受診した者の割合(20歳以上)	49.2% (令和5年度)	80.0%	健康トライ21 市民アンケート
21	妊婦歯科健康診査を受診した者の割合	31.1% (令和4年度)	35.0%	東大阪市 妊婦歯科健康診査
22	15歳未満でフッ化物応用の経験がある者の割合	67.8% (令和5年度)	70.0%	健康トライ21 市民アンケート